

【主催】 ONE SLASH

「小さな自然再生」研究会 / 日本河川・流域再生ネットワーク

【協力】 エネシフ湖北 / 滋賀県琵琶湖環境科学研究センター

公益財団法人リバーフロント研究所

## 「小さな自然再生」現地研修会（第25回）開催報告

2024年11月2日（土） 滋賀県長浜市・大浦川



開会挨拶



魚道づくり



記念撮影



座学研修



日本河川・流域再生ネットワーク

2025年3月



公益財団法人河川財団による河川基金の助成を受けています。

# 「小さな自然再生」現地研修会（第25回）

## 開催報告

2024年11月2日（土）滋賀県長浜市・大浦川

### はじめに

滋賀県長浜市を流れる大浦川において、「ビワマス魚道を設置して地域を盛り上げよう」をテーマに、地元で農業から盛り上げる若者集団「ONE SLASH」とともに仮設魚道の設置を行い、合わせてゲリラ炊飯も体験し、川を活かして過疎化した地域をどのように活性化させていくかについて参加者とともに考えました。

この開催報告は、研修会の参加者とともに学び議論した内容の一部を、当日の写真を中心に皆様にご紹介するものです。

本研修会にご参加、またご協力頂きましたの皆様には厚く御礼申し上げます。

2025年3月

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)

## 開催概要

- 開催日時： 2024年11月2日（土） 10:00～17:00
- 開催場所： 滋賀県長浜市西浅井町  
＜座学：庄農業者トレーニングセンター／現地：大浦川＞
- 参加者： 35名
- 主催： ONE SLASH  
「小さな自然再生」研究会 / 日本河川・流域再生ネットワーク
- 協力： エネシフ湖北 / 滋賀県琵琶湖環境科学研究センター  
公益財団法人リバーフロント研究所

## プログラム

### **(10:00～10:10) 開会挨拶 (浅見宣義：長浜市長)**

(10:10～12:30) 小さな自然再生の実践～ラバー堰に手づくり魚道を設置する

- ビワマス遡上の観察、落差 1.2m 取水堰に手づくり魚道設置、昨年バーブ工設置現場視察
  - 現地技術指導：岩瀬晴夫（株式会社北海道技術コンサルタント）・田原大輔（福井県立大学）・佐藤祐一（滋賀県琵琶湖環境科学研究センター）

### **(12:30～13:30) 昼食：〈ONE SLASH〉のゲリラ炊飯**

### **(14:00～17:00) 琵琶湖湖北地区のネイチャーポジティブに向けた取組を学ぶ座学研修**

- RICE IS COMEDY 人口 4000 人のまちで仕掛ける「地域の生存戦略」  
(清水 広行：ONE SLASH)
- 滋賀県で広がる市民発意のビワマス魚道  
(佐藤 祐一：滋賀県琵琶湖環境科学研究センター)
- 田んぼ×川の地域再生と自然再生ワークショップ

### **(17:00) 閉会**

## 開会挨拶



研修会開催地である長浜市の浅見宣義市長より来賓挨拶の後、主催・協力団体を代表して滋賀県琵琶湖環境科学研究センターの佐藤研究員より、今回の研修会の開催経緯や趣旨説明を頂きました。

## 現地演習（午前）

### テーマ：「ビワマス魚道を設置して地域を盛り上げよう」

悪天候により、当初プログラムの午前の座学と午後の実践を入れ替え、午前中に大浦川をフィールドに手づくり魚道の設置仕上げ作業※を行いました。

※悪天候が予想されたため、事前に組み立てた木製魚道を前日までに仮設置し、研修会当日は、より遡上しやすい魚道とするための仕上げ作業を実施。

はじめにビワマス遡上の様子を観察し、その後に落差 1.2m 取水堰に設置する手づくり魚道の概要を紹介し、研修会での仕上げ作業の手順を参加者で共有しました。続いて、昨年パーブ工を設置した親水空間を視察し、今後取り組むべきアイデアを参加者とともに交換しました。



手づくり魚道の解説と本日の作業手順の説明





増水のため遮水作業に苦戦。堰上流部では土のうづくり。



無事に遮水を完了し、魚道内での加工作業。



土のう製作チームと魚道加工チームに分かれて仕上げ作業。



作業終了後の記念撮影。



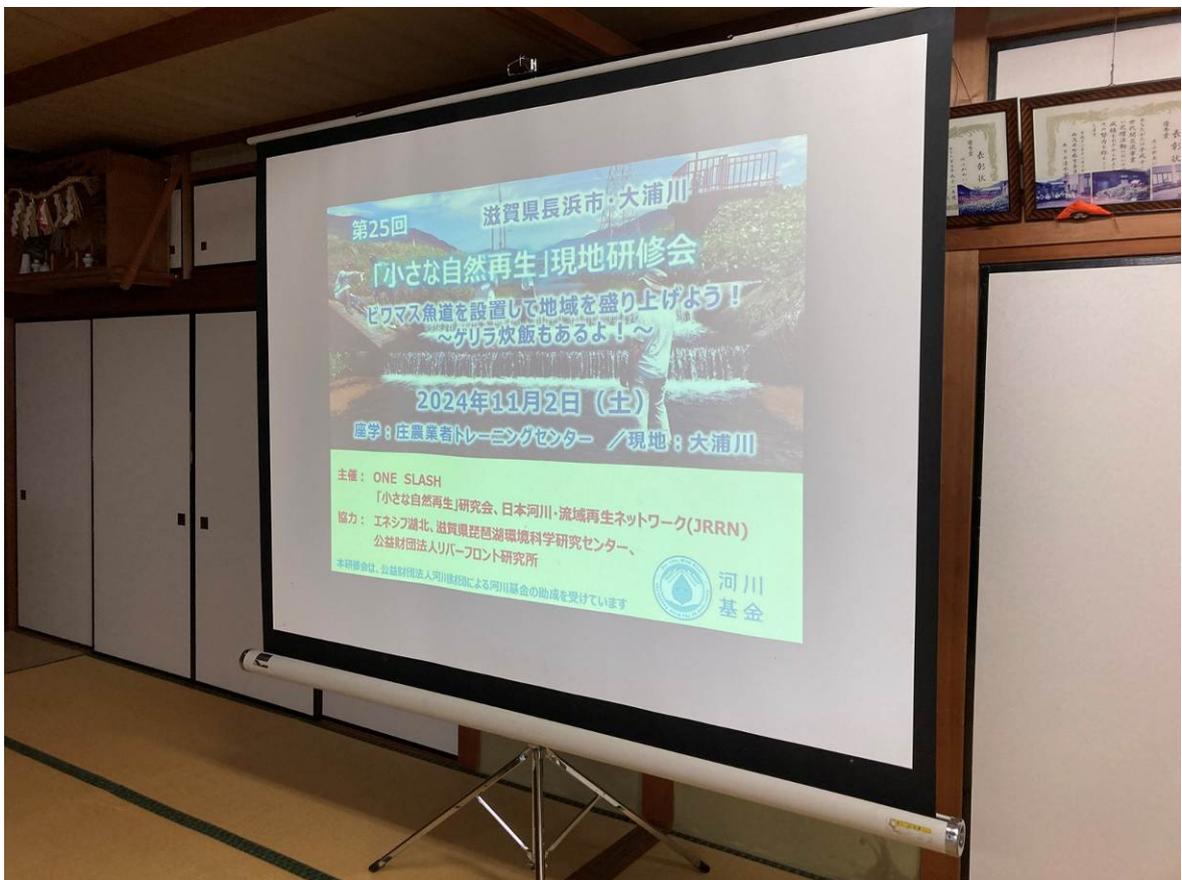
作業完了後の魚道の様子（上）及び昨年にバープ工を設置した現場案内

## ゲリラ炊飯（昼食）

研修会の昼食は、“RICE IS COMEDY（米づくりは喜劇だ）”をコンセプトに掲げる米農家チーム「ONE SLASH」によるゲリラ炊飯を堪能しました。







## 座学研修



### RICE IS COMEDY 人口4000人のまちで仕掛ける「地域の生存戦略」 (清水 広行 : ONE SLASH)

「地域を沸かす、熱狂の旗を立てろ。」の熱いメッセージに始まり、ONE SLASH のプロフィールや取組紹介を通じて、農業から地域を盛り上げるためのヒントを話題提供頂きました。



### 滋賀県で広がる市民発意のビワマス魚道

(佐藤 祐一：滋賀県琵琶湖環境科学研究センター)

自然再生のターゲットであるビワマスの生態、また滋賀県内での手づくり魚道の取組みから得られた滋賀県方式の市民の発意から始まる魚道づくりのノウハウを話題提供頂きました。



### 魚が魚道をのぼるときの動き

(岩瀬晴夫：株式会社北海道技術コンサルタント)

ビワマスの遡上改善に向けた魚道づくりの基礎情報として、サケマス類の河川における遊泳行動や遡上時の魚類の泳ぎ上がり、跳ね上がりの特徴などについて話題提供頂きました。

## 「田んぼ×川の地域再生と自然再生」ワークショップ

午前の現場での実践研修及び座学研修で学んだ内容を踏まえ、田んぼを活かした川の地域再生と自然再生をテーマに、5班に分かれてワークショップを行いました。



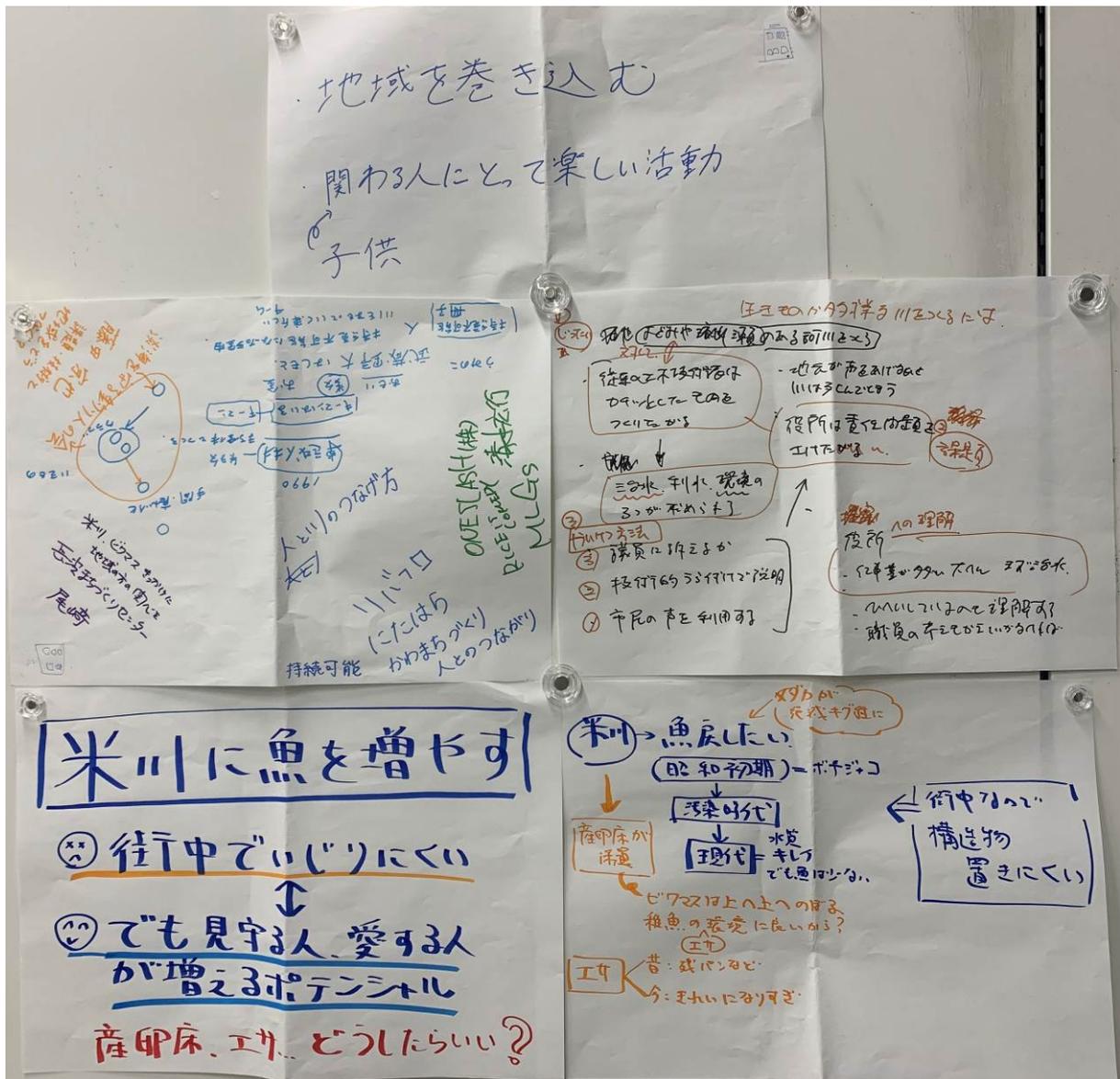


各班から議論のポイントや提案を発表

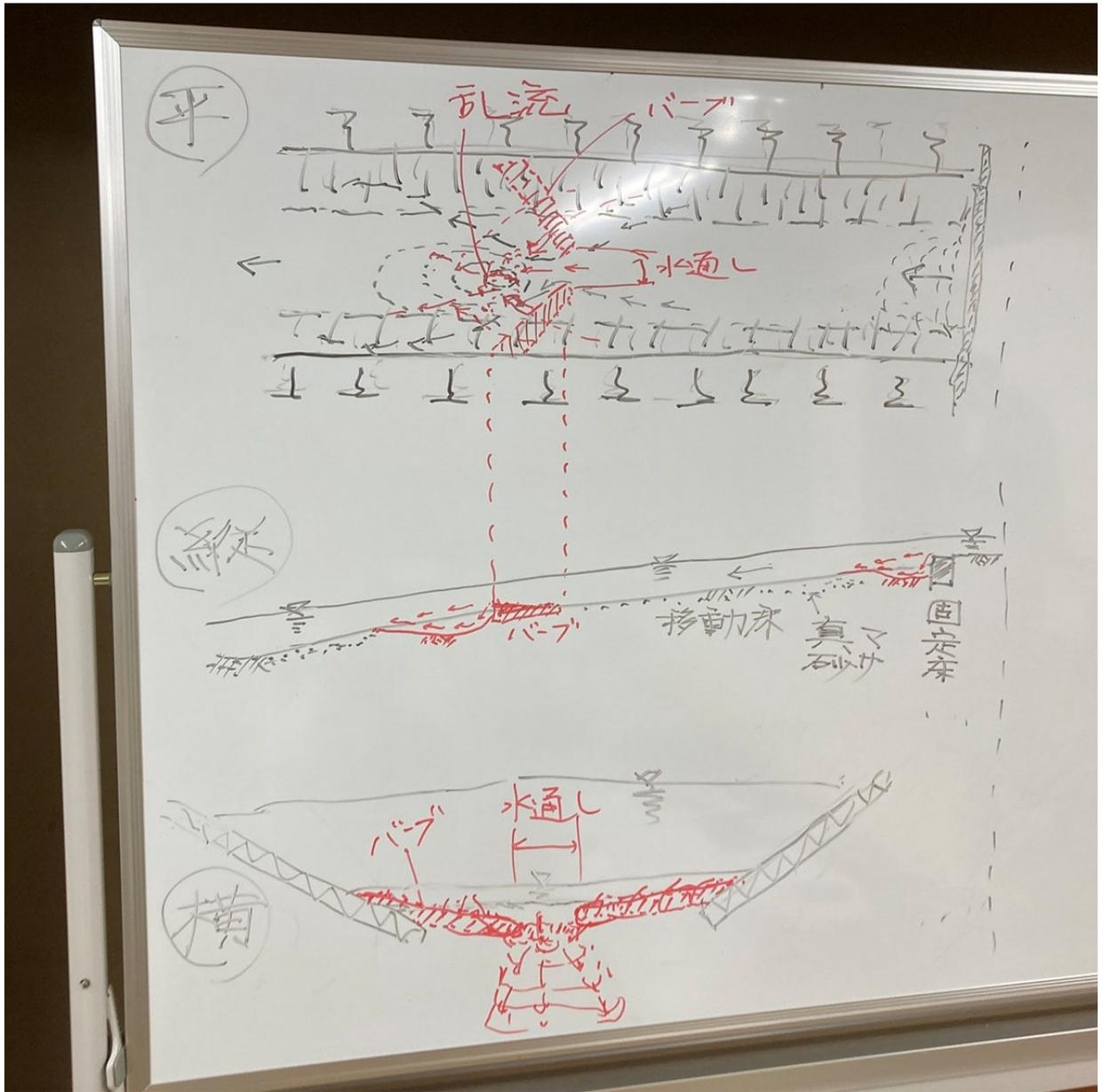


各班から議論のポイントや提案を発表





各班より出された主な意見メモ



バールエのリベンジに向けた川の流れのメカニズムのイメージ図

## 参考資料 1 (参加者アンケート調査結果)

### Q1 : 本日の研修会で一番印象に残ったことを教えてください。

- 雨の中でしたが、やはり川の中の活動は楽しかったです。
- 皆んな、熱い！
- 岩瀬先生の魚理論
- 参加者の意識の高さ
- 産卵床の作り方
- ゲリラ炊飯とバープや魚道の考え方に関する解説
- 魚道づくり
- 「究極のネガティブは究極のポジティブになる」「自然を相手にする際もテクニックの前にまずは原理」
- 佐藤さんの活動紹介
- 滋賀県の魚道作りが、市民の気づきからだったということ。飛び上がりより、跳ね上がりの方が良いということ。魚道を実際見たことも印象に残りました。
- ビワマス魚道作り
- 魚道作成が一発で成功した訳ではなく、試行錯誤して本格設置まで行った話が印象に残った。
- ワンスラッシュの方を始め、地域への関心が高い住民の方が多いと感じた。
- ビワマス魚道を実際に作成したことにより、構造や課題など明確にわかったので良かったです。
- 魚道づくり

## Q2：今後の西浅井・大浦川における活動へのご提案や、応援メッセージなどをご自由にお書きください。

- 引き続き西浅井での活動を楽しみにしています！
- 米川も頑張っていきたいです
- これからも地元盛り上げ活動を頑張ってください！またイベントやビワマス観察会などあれば参加させていただきます。
- 河川管理者としてできることで応援していきます。
- 浚渫した川が自然豊かな川になるような取り組みになって欲しいです！
- 魚道の作り方や地域との関わり方など勉強になりました。お米おいしかったです。
- 参加者のみなさんが楽しんでいるのが素晴らしいです。お米×水 の可能性を感じます
- 興味深く、楽しく参加させていただきました。また次回以降もチャンスがあれば参加させていただきたく、活動の展開を楽しみにしております。
- 大浦川の環境整備、頑張ってください
- 西浅井のそこかしこで子どもたちが川で遊んでいる様子がみられるようになるといいな、それがひいては大浦川などの自然再生に繋がっているといいなと思いました。私も盛り上げていきます！
- おにぎり、大変美味しかったです。
- お米×〇〇 の今後が楽しみです。応援してます。
- 私たちの南小松沼自然再生協議会の活動と何かコラボレーションできればありがたいです。
- ありがとうございます。
- 子供がメインとなるイベントも行うことで地域の活性化に繋がると思った。
- 最後に話のあったハの字バープのような手法や理論も大事だが、実際に事業を行う上で協力が不可欠な行政と早めに関わって、協力を乞う上でどのような課題をクリアすべきなのか早めに把握することも重要と感じた。できれば初期段階から意思疎通をとって、同じ方向・課題意識をもって取り組んでいけるといいと感じた。
- 全国にあまり例のないラバー堰への仮設魚道とのことですので、色々な仮設魚道にチャレンジしてみたいと思いました。次回があればまた参加したいと思いました。
- 本日はありがとうございました。また機会がありましたら、参加させていただければと思います。

参考資料 2 – 参加者募集チラシ (表面)



開催日時	令和6年11月2日 (土) 10:00~17:00
会場	滋賀県長浜市西浅井町庄929 <座学: 庄農業者トレーニングセンター / 現地: 大浦川>
対象	小さな自然再生に関心のある方々 <span style="float: right;">※参加申込方法、会場へのアクセス、問合せは裏面をご覧ください。</span>
定員	50名 (先着順)
参加費	1,500円 (昼食代として: <ONE SLASH>のゲリラ炊飯) ※参加費は当日支払い
持ち物	川の中で滑らない靴 (洞長靴、アクアシューズ、鮎たび等)、作業用手袋
プログラム	※プログラム及び講演タイトルは一部変更の可能性もあります。 ※主催者側で行事保険に加入いたします。

(10:00~11:30)	琵琶湖湖北地区のネイチャーポジティブに向けた取組を学ぶ 座学研修 @トレーニングセンター
-	開会挨拶
-	RICE IS COMEDY 人口4000人のまちで仕掛ける「地域の生存戦略」(清水 広行: ONE SLASH)
-	滋賀県で広がる市民発意のピワマス魚道 (佐藤 祐一: 滋賀県琵琶湖環境科学研究センター)
-	午後の大浦川での仮設魚道設置作業について (和田 彰: 公益財団法人リバーフロント研究所)
(11:30~12:30)	稲刈り体験: <ONE SLASH>のちよっと変わった稲の収穫
(12:30~13:30)	昼食: <ONE SLASH>のゲリラ炊飯
(13:30~17:00)	小さな自然再生の実践~ラバー堰に手づくり魚道を設置する @大浦川
-	ピワマス遡上の観察 及び 昨年バープ工設置現場の視察 ■現地案内: 清水広行 (同上)・佐藤祐一 (同上)
-	落差1.2mの取水堰に手づくりで魚道設置 ■現地技術指導: 岩瀬晴夫 (株式会社北海道技術コンサルタント)・田原大輔 (福井県立大学)・佐藤祐一 (同上)
(17:00)	閉会



公益財団法人河川財団による河川基金の助成を受けています。

主催: ONE SLASH、「小さな自然再生」研究会、日本河川・流域再生ネットワーク  
協力: エネシブ湖北、滋賀県琵琶湖環境科学研究センター、公益財団法人リバーフロント研究所

## 参考資料 2 – 参加者募集チラシ（裏面）

### 会場のご案内

#### 研修会場 庄農業者トレーニングセンター

〒529-0722 滋賀県長浜市西浅井町庄929

※研修会場へは **お車** または **JR** でお越し下さい。  
→永原駅（JR西日本・湖西線）出口2から徒歩約20分



### 申し込み方法

必要事項（氏名・所属・連絡先等）を明記の上、E-mailでお申し込み下さい。

申込〆切日：令和6年10月28日（月）17:00

E-mail：info@a-rr.net

項目	記入欄
(ふりがな) 氏名	
所属	
連絡先	〒
	住所：
	電話：
	Email：

※記入された個人情報は、厳重に管理した上で、JRRNが主催する行事等のご案内に利用させて頂く場合がございますので、ご了承ください。

【お問合せ】 日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局（担当：和田彰・森本洋一）  
〒104-0033 東京都中央区新川1-17-24 NMF茅場町ビル7階（公財）リバーフロント研究所内  
Tel: 03-6228-3861 Fax: 03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net  
Website: <http://www.a-rr.net/jp/> Facebook: <https://www.facebook.com/JapanRRN>





## 「小さな自然再生」現地研修会（第25回）開催報告

～ 2024年11月2日（土）滋賀県長浜市・大浦川 ～

2025年3月21日

【発行】

日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）

〒104-0033 東京都中央区新川1丁目17番24号 NMF茅場町ビル7階

公益財団法人リバーフロント研究所 内

電話:03-6228-3861 Fax: 03-3523-0640

E-mail: [info@a-rr.net](mailto:info@a-rr.net)

URL: <http://www.a-rr.net/jp/>

Facebook: <https://www.facebook.com/JapanRRN>

※JRRN 事務局は、公益財団法人リバーフロント研究所が公益を目的に運営を担っています。